



mIRaI 通信

～輝く「未来」の中に「伊里」はある～

助っ人現る 人の力は偉大だ



10日の放課後、グラウンドには多くのボランティアの姿がありました。

今回の使命は、先日より緊急体制で行っているグラウンドの草取りのお手伝いです。松井先生の指示のもと、端にズラリと横一列に並び、ほふく前進ならぬ、「しゃがんで擦り足一本抜くごとに前進」

です。ズリズリと進み、作業の時間は20分程度しかとれませんでした。そこはやはり、意識高く集まってボランティアたちの人海戦術。ズリズリ部隊(笑)が通った後は、草木一本生えていない、とまではさすがにいきませんが、見事な土のグラウンドが残っていたのでした。

とても助かりました。ありがとう！



新執行部が校門で「グッモーニン～！」



本校では毎週金曜日は「English Day」と設定し、様々な活動をしていきますが、朝のあいさつと、帰りのあいさつも「グッモーニン～(本格発音)」、「シーユー(ネクストウィーク)」と英語で行っています。

この日は、生徒会の新執行部が校門に並び朝のあいさつを行いました。英語であいさつされてから「アッそうか」と、英語であいさつし返す生徒がまだまだ多いです。自分から英語のあいさつが飛び交うように、新しい生徒会の力で頑張ってください。

12日は、3年生の近藤君が、岡山城東高校の英語スピーチコンテストに出場しました。賞こそ逃しましたが、堂々とした発表だったそうです。伊里中からは2年連続の出場となりました。

後にくるのは誰だ？



進学説明会の時期となりました



11日の18時半から、3年生保護者を対象に、進学説明会が図書室で行われました。今年ももうこの時期が来たのですね。

3年主任川根先生制作の、パワーポイント資料を使つての説明が行われ、参加した保護者のみなさんは真剣に聞き入っていました。

進路事務は、我々教員も何度経験しても緊張するものです。「将来」がかかっていますから当たり前ですよ。今年も、程よい緊張感をもってやっていきたいと思います。



今、時代は「イカ」なのか？



それは、ある日の安井先生との会話から始まりました。

「ちょっと伊里漁協まで行ってきます。」

「(伊里漁協？チャレンジは終わったし…) いいけど、何で？」

「ちょっとイカを注文してるんで…」

「(何い？晩飯のおかず買いに行くんかあ)、イカ？何で？」

「理科の解剖で使うんです。」

「解剖オ？？？今はイカでやるん？俺らは「フナ」と「牛ガエル」だったけどなあ。」

※ () 内は私の心の声で、ちょっと脚色しております (苦笑)。



そしてこのような、おいしい情報 (イカが美味しいという意味含む：笑) を手入れた私は、当然解剖を行う2年生の授業にお邪魔をしたのでした。

安井先生の説明を聴きつつ、「そうか、そうだったのか。イカの体ってそうなのかな？」と新たな発見。やっぱり世の中まだまだ知らないことだらけです。

そして独特の匂い (苦笑) に包まれた教室で解剖開始。私たちの頃は、けっこう女子が「キャー」とか「ヤダー」とか、騒然とした雰囲気があったように思い出しますが、まずハサミを手にしてチョキチョキ切り始めたのは女子。解剖の対象が、フナやカエルからイカに変わったように、時代も変わって行くのだなあとしみじみ思った秋山でした。いやいやそれとも、あの「キャー」も「ヤダー」も、女子の演技だったのでしょうか (怖)。

翻って現在の伊里中学校の2年生は、どの班も、スムーズに解剖して行く姿に感心しました。良い勉強ができたようです。

食材としてもそうですが、こうやって勉強の対象となってくれる「生命」に、感謝の気持ちはもちたいものですね。

この日の解剖の授業は午後の5・6校時。何という偶然か、給食のおかずに「イカ」が出ました。なかなか複雑な面もあったのではないのでしょうか。順番が逆ならよかったのにね？



電子黒板で○×クイズ形式で復習。スゴイ時代です。



女子はさっさとハサミで解剖開始。



これが「クチバシ」だそうです、初めて見ました。



負けじと男子も解剖開始。頑張りました。

二十四節気 立冬

次候「地始めて凍る (ちはじめてこおる)」11月12日～16日頃

地が凍り始める頃。霜が降り、氷が張り、季節は冬を迎えます。

